

Mayumi Handa  
Yuki Masaki

“正木ゆき”の『げんき Plus Interview』

夢をもってがんばる女性に  
もっともっと会いに行きたい。

「正木ゆきのげんきPLUS」。今回のゲストは兵庫県尼崎市にある、ヘアラルト阪神理容美容専門学校  
の理事長・半田まゆみさんです。丸刈りの理容  
美容専門学校理事長として有名な彼女は、学生から「ま  
ゆみセンセー」と呼ばれ、とても慕われています。  
小柄な体に溢れんばかりのパワーと魅力はいつた  
いどこから生まれるのでしょうか。

ニュートラルでは面白くない

—まず「HAIRART-ヘアラルト-」という命名に  
ついて教えてください。

「HAIR-ヘア-」と「ART-アート-」を融合さ  
せた名前なんです。ヘアのデザインが芸術、とい  
う意味ではなくて、ヘアという舞台で自分自身を  
表現してゆく、それが芸術なんだ、という発想で  
すね。私が付けた名前なんです。はじめは「ヘ  
アアート」と考えていたんですが、何かもう少し  
オリジナルな読み方はないかな、と考えて「ヘア  
ラルト」という独自の呼び方を思いついたんです。

—すごくいいネーミングですよ。ウチのライ  
ターもとてもいいと言っていましたよ。

ありがとうございます。私も知人のコピーライ  
ターにいろいろ考えてもらったんですが、やっぱり  
「ヘアラルト」がいいということになったんです。  
私が理事長になって、学校の伝統的な良い部分は  
残しつつ、改善できるところは新しくしようとい  
うことになり、コンセプトを変え、そのタイミン  
グで学校名も変更したんです。

—コンセプトはどのように変わりましたか？

そもそも理美容専門学校というのは、国家試験  
に合格するところに焦点を合わせている部分があ  
ります。時代も「平均的優秀人」を作るのが日本の  
よき教育でニュートラルな人を作ろうという部分  
が過去にはあったと思います。

でも私は人間誰しも、得意な部分と苦手な部分  
があると思うんですね。ニュートラルじゃ面白く  
ない。デコボコがあってこそ人間は面白いんですよ。  
ですからヘアラルトでは、もちろん理容師、美容  
師の免許を取ることや、技術を身につけることも  
大事だけれども、高校を卒業して社会に出る前の  
2年間で、自分らしさに気づき、自分を表現する  
ことを学んで欲しいと願っています。自分のいい

ところを発見して、自分の意見を言える人になっ  
て欲しいんです。

学生を変える「ヘアラルト・マジック」

—今は自分の意見を言えない子どもが  
多いですね。

自分を出すのが“怖い”と思っている子が多いみ  
たいですね。周りや違っていたらイジメられるか  
も知れない。だから本当は違う意見を持っていた  
としても、なんとなく周りに合わせてしまう。

ヘアラルトでは全く逆で「他人と違っていい！  
違って当たり前！」なんです。学生たちが周囲か  
ら押さえつけられているものを取り払ってあげたい、  
そういう学校にしたかったんです。自由な表現が  
出来て、自分の意見が言え、自分で行動できるよ  
うになって欲しい。

—学生さんたちはみんな明るく挨拶出来るし、  
本当に生き生きしてますよね。

そうですね、この学校に入学してすごくポジ  
ティブになったと言ってくれますね。保護者会を開  
くと、保護者の方から「高校までは学校に行くの  
がイヤだイヤだと言っていた子が、今では日曜日  
が来るのがイヤで毎日学校あるほうが楽しい」っ  
て言っていると伺いました。「ヘアラルト・マジック」  
とよく言われるんですよ。私にこんなことを言っ  
てくれる学生もいましたね。「こんなに楽しそうに  
自分の仕事をしている大人を、今まで見たことが  
ない」と。

私はこの仕事が本当に天職だと思っています。  
他人をキレイにするのが好きだし、自分がキレイ  
になるのも好き。学校で若い子を育てるというこ  
ともすごくやりがいを感じますね。

—卒業式には学生さんを“ハグ”するんだとか？

そうですね！式の舞台上で一人一人と握手を  
したり、抱きしめたりします。卒業式以外にも、  
学内のコンテストで卒業生の男の子が審査員で来  
てくれた時は、記念撮影で私をお姫様だっこして  
くれたんですよ(笑)本当に笑っちゃうでしょ？学  
生と先生の壁がないんです。だからと言って先生  
を馬鹿にしているわけではなくて、ちゃんと「教  
えていただく」というスタンスを持っています。「自  
由と放任」の違いをうちの学生はわかってくれて



半田 まゆみ ほんた まゆみ

【ヘアラルト阪神理容美容専門学校 理事長  
ヘアメディアプロデューサー】

1962年 兵庫県尼崎市出身。関西学院大学法学部卒。  
京都教育大学名誉教授・嶋本昭三氏に師事し現代美術  
を研究。ヘア・メイクと現代美術の融合を発表。  
1997年、阪神大震災により、前理事長である父を失う。  
その意志を継ぎ理事長に就任。ヘアとアートの融合を  
目指し「ヘアラルト」というスクールブランドを導入。  
世界各国の芸術展でヘア・アートを発表し、講演活動  
も精力的に行っている。

ますね。

ある時気付いたんですが、学生たちも私もお互  
いの年齢を意識してないんですね。人間は「年齢  
で生きている」のではなく、「いかに生きているか」  
ということだと思えます。

業界を憧れのものにしたい

—お母さん方に何かアドバイスをいただけますか？  
お子さんに自信をつけさせてあげて欲しいですね。  
何かをやりたい、という時にチャンスを与えてあ  
げて欲しい。

—半田さんのこれからの夢は何ですか？

理容美容業界をより働きやすい環境にして、も  
っと憧れられる業界にしたいですね。一般の人に  
人をキレイにする職業に就いていることは、素晴  
らしいともっと認識してもらいたいです。私はそ  
のために理容美容業界と一般の人との橋渡しの  
存在でありたいと思っています。

Interviewer 正木ゆき

株式会社もっと 代表取締役

1967年生まれ。大阪出身。番組・イベント・映像・出  
版など幅広く企画プロデュースし、講演活動も行う。  
1男4女を育てながら、がんばっている女性を応援  
する企画会社「もっと」を  
経営。各局でラジオ番組を  
プロデュースし、自らもパ  
ーソナリティを務めた。  
関西で活躍する女性50人  
をインタビューした書籍「元  
気！勇気！本気！」を毎年  
出版している。

